

令和5年度 学校評価 自己評価書(後期)

(回答者: 教職員18人, 生徒148人, 保護者102人)

※ 保護者がよく協力をしてきて、72人→102人と回答者が増加した。

4:よくできている 3:できている 2:ややできていない 1:できていない

学校教育目標 「志や誇りをもち、心豊かにたくましく未来を切り拓く生徒の育成」

1 「志や誇り」

(生徒) 将来を意識した生活については平均値3.01から3.11に増加。地域・家庭の手伝いなど貢献度については2.78から2.82, 国際社会・地域社会への貢献については2.94から2.99へと微増であった。

(保護者) 体験活動や身の回りの人との関わりを積極的に推進しているかについての項目が2.51から2.60と増加した。家庭での手伝いや地域の活動への参加などについては平均2.45から2.60と増加が見られた。

(教職員) 進路・キャリア教育においては高い意識をもって取り組んでいる(平均値3.24)。一方、地域や国際理解教育については生徒保護者同様、値が低かった。

→ 地域の貢献や家庭での手伝いなど、郷土教育の推進に関して職員・保護者共に数値が低かった。コミュニティ・スクールのあり方を検討する中で、この点に注目し、どのように地域行事に参加させるかや地域の人材活用などの機会を考え、実施していくことが課題である。3学期にはALT5人を呼び、生徒の英会話能力向上を図る予定でいる。

2 「心豊かに」(徳)

(生徒) あいさつの項目、いじめの項目、ボランティア精神についての数値が高く、意識付がなされていることがうかがえる(あいさつ3.10, いじめ3.51)。読書の取組は全体的に良かったように思えるが、アンケートをとった時期に、朝読書の態度について全体指導があったことから、それぞれの自省による低評価と考えられる。

(保護者) いじめの項目、あいさつの項目、他者への人権の大切さに関する項目はそれぞれ前期も高かったが更に上昇した。一方、最も低かったのが家庭における読書の推進(2.13→2.16)で、すべての項目の中で最も低い。

(教職員) 親和的でまとまりのある集団作りに関する項目が高いが、前期よりも少し下がっている(3.31→3.24)。読書については前期の2.88→3.12と大幅に上がっている。ビブリオバトルの試行導入により、図書館利用者が増えたことや本を借りに行くように勧めた職員が増えたことが理由と考えられる。

→ 読書の推進が課題であると保護者はとらえている。生徒はよく本を読んでいるので、(市平均32.4冊に対して本校平均37.1冊)その点を評価すると共に、ビブリオバトルのような取組をよりよいものにしていく必要がある。また、いじめ防止やあいさつ励行の項目が三者ともに高いことが本校の強みである。

3 「たくましく」(体)

(生徒) ストレスマネジメントが前期よりは0.1ポイント減少(2.98→2.88)した。もともとこの点は課題であったので、引き続きストレスの対処法について、継続して指導する必要がある。前回課題であった規則正しい生活については向上が見られた(2.78→2.85)。

(保護者) 感染症対策については十分高い結果が得られた。昨年度に見られた規則正しい生活の項目における生徒との乖離^{かいり}については保護者も2.76→2.85と、生徒と同様の向上が見られた。また、性教育や薬物乱用、メディアの使い方の指導などについては、2.63→2.73と幾分の向上が見られた。引き続き保護者への啓発や情報発信が必要である。

(教職員) 安全面全般の値は高く出ているが、ストレスマネジメント(2.94)や性教育及びメディアの活用(2.94)において前回と変わらず低い結果であった。昨年見られた生徒との意識の乖離は解消されていた。

→ 「たくましく」の項目では、全体的にストレスマネジメントの指導や言葉かけが課題が少しずつ解消されてきているが、依然課題と言える。また、メディアの使い方・性教育については、引き続き学級通信や保健だより、PTA時などでの共通理解や啓発が必要である。

4 「未来を切り拓く力」(知)

(生徒) 自ら学ぼうとする姿勢を高く自己評価している生徒が多い(3.25→3.30)。また、タブレット活用とそれを活用した表現ができてきているかについても微減だが、高評価である(3.30→3.25)。予習・授業・復習のサイクルを確立させているかという項目は2.91と前回より微減であった。

(保護者) 予習・授業・復習のサイクルを確立させようと促すことが2.68と依然低く、引き続き課題である。分からない問題等を先生や友達に尋ねさせるように促す項目は微増であるが、家庭学習に対する意識は全般的に変化がなかった。

(教職員) どの項目も「よくできている」の回答が多い。中でもICTの活用による学習指導や授業改善については3.65と高評価であり、ほとんど全ての職員が意識して取り組んでいることが分かる。

→ 「未来を切り拓く力」の項目では、全般的に高評価であるが、生徒や保護者がどのように家庭学習を進めるのか、見届けるのかを理解させたり実践したりする必要がある。

○ 一校一改善「生徒個々のできることを増やすことで、生徒の自己肯定感を高める」

(「学校楽しいーと」の自己肯定感に関する値の変容)

	R4.5	R4.11	R5.5	R5.11
1年生			11.11	10.50
2年生	11.16	11.14	10.70	10.60
3年生	11.03	10.97	11.44	11.04

※最大数値は16

→ 自己肯定感の向上を図る具体的な取組は難しいが、一人一役や各種委員会を通して、自他の良さに気付かせていく必要がある。学級通信などで、生徒の頑張りを生徒・保護者に伝えていくことも進めていく。